

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

建築士定期講習会に参加して

建築業界を震撼させた構造計算書の偽装事件を、皆さんは覚えているでしょうか？平成一七年一月に表面化し、国民の建築に対する安心・安全を脅かす、大きな社会問題となった事件です。

俗に言う「姉齒事件」だが、このことが建築業界への不振を広げ、国土交通省はその後、確認申請時の審査方法の厳格化など、次々と対策が練られた。

当初、リフォームの個人住宅を扱っている我々には、大変な事ではあるが、少し遠い感覚でこの事件を眺めていた。だがそんなことは言っていられなくなった。増築でも確認申請を伴うものが多く、確認申請審査が厳しくなった分、簡単には申請が降りなくなつた。リフォーム対象にしないうちの既存のままの部分に関してまで、改修が求められることも多くなつた。

そして、あれから四年ほどの月日が経とうとする今、日常業務では安定を見てきたが、今度は個々の資格に対する見直しとして、平成二〇年一月に施行された改正建築士法に基づ

き、三年ごとに最新の建築関係法規などの知識を習得する講習受講が義務付けられた。そのため一日かけて定期講習を受け、その後の終了審査に合格しなければならぬ。

これに受からないとどうなるのか？一級建築士を剥奪されることはないのだが、建築士事務所にも所属する建築士として仕事をするのが認められなくなる。約一七〇名の建築士集団である三井のデザインスタッフ会のメンバーにとって、これは全員の問題だ。特に一級建築士は国家資格で、取得してしまえば一生のものと考えていた者も、そうはいかなくなつたのだ。

先日、私も一級建築士講習と管理建築士講習に二日間を費やした。講習会場には、一日缶詰になり講習を受ける覚悟が出来ている建築士のメンバーが集まつた。真剣な空気の中で講習が進み、最後の終了審査まで、みんな大変な集中力を発揮していた。

通常の資格試験と違い、すでに資格がある人への審査で、取得年数もばらばらのメンバーのため、年齢層

の幅もかなり広い。

私が受けた教室には、車椅子で臨まれている方もいた。老眼鏡を忘れて見えないうち、と言っている方もいた。手が震えて、試験用紙のあの小さいマークシートにうまく記入できない方もいた。一級建築士であるからといって、細かい図面かきか仕事だとは限らないと思うと、この小さいマークシートにうまく書き込めなくて不合格では気の毒な気もした。そういうば、マークシート方式で試験が行われるようになったのは、いつ頃からだろうか？このシートへの記入方法がわからず困っている方がいたことを思うと、そんなに昔ではないのかも知れない。

今回の講習の中で、誰にとってもやさしいデザイン、ユニバーサルデザインの必要性がうたわれていたが、この小さく色の薄いマークシートは、とてもユニバーサルとは言えないなど感じた。そういえば、お風呂で使うシャンプーとリンズの文字が小さく、どっちがどっちかわからないと言っていた両親の言葉を思い出した。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。『三井のリフォーム』で設計を手かけ二五年。暮らしの創造に貢献する『三井のリフォーム住生活研究所』の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。